

日本光学会平成 17 年度第 3 回常任幹事会議事録

日 時： 2006 年 3 月 10 日(金) 13:30~17:00

場 所： 応用物理学学会会議室

出席者： 黒田幹事長, 他 21 名

議 事：

1. 前回議事録に関する質問事項

- ・ 前回議事録は承認された。

2. 報告事項

2-1. 編集委員会関連報告

(1) 「光学」編集報告

- ・ 発刊作業進捗が報告された。
- ・ Web 公開のための電子化作業進捗が報告された。
- ・ 出版費用一覧が示された。

(2) 「OPTICAL REVIEW」編集報告

- ・ 掲載および投稿論文状況が示された。特集論文を除くと投稿数は減少傾向にあること、海外、特に台湾・韓国の投稿が増加傾向にあることが報告された。

(3) 「OPTICAL REVIEW」出版委員会報告

- ・ Springer 無料アクセス期間延長、サーバーの一本化について議論された。電通大サーバーを維持することが確認された。
- ・ 電通大サーバーのサイトライセンス接続状況、機関リポジトリの議論について報告された。
- ・ EBESCO 出版から OR 取り扱いの提案があったことが報告された。2 年毎の Springer との契約更改時に再検討する。
- ・ Springer サーバーからのダウンロード数は 1000 件/月程度である。

2-2. 講演会関連報告

(1) 第 5 回近接場光学に関連するアジア・太平洋会議 (APNFO-5) 開催報告

- ・ 参加者 140 名で盛況であったことが報告された。
- ・ 国際会議支援プログラムの助成金は黒字収支につき返還の予定。

(2) 平成 17 年度日本光学会北海道講演会実施報告

- ・ 発表件数 95 件で、昨年に比べ 11 件増で活発な議論が行われたことが報告された。次回、参加人数と収支を報告する予定。

(3) 平成 17 年度日本光学会関西講演会実施報告

- ・ 参加者 25 名で盛況であったことが報告された。

(4) 第 39 回光学五学会関西支部連合講演会実施報告

- ・ 参加者は 45 名で盛況であった。次回、収支を報告する予定。

(5) 平成 17 年度北陸信越講演会報告書

- ・ 51 名の参加者で盛会であった。
- ・ 日本光学会主催および共催の講演会・講習会については、予算提出と経費報告のルール化が確認された。

(6) 第 31 回光学シンポジウム進捗報告

- ・ 6 件の招待講演確定が進捗として報告された。さらに、一般講演の募集がされた。

(7) 第 40 回サマーセミナー進捗報告

- ・ テーマ、講師、予算が報告された。順調な進捗である。

(8) 平成 17 年度日本光学会名古屋講演会実施報告

- ・ 参加者 30 名で盛況であったことが報告された。次回、収支報告の予定。

(9) OJ2006 (日本光学会年次学術講演会) 企画書

- ・ プログラム概要、運営、予算が報告された。順調な進捗である。
- ・ OJBP 賞は 2005 年度結果を引き継ぎ、詳細を立案することが指示された。

2-3. その他報告事項

(1) 平成 17 年度研究グループ活動報告

- ・ 11 研究グループの事業活動、収支決算が報告された。
- ・ コンテンポラリーオプティクス研究グループ第 16 回研究会の案内が配布された。
- ・ 第 12 項のボリュームホログラフィックメモリ技術研究グループの活動は平成 18 年度からのため削除。
- ・ 平成 17 年度収支決算が報告された。

(2) 協賛依頼について

- ・ 6 件の協賛依頼について承認された。

(3) 会員動静

- ・ 大きな会員数変動はなかった。
- ・ 応物会員に対して、分科会会員が減少傾向にあることが指摘された。

3. 審議事項

(1) 事業および会計報告

- ・ 平成 17 年度事業報告の第 4 項目に「APNFO-5」を追記、第 5 項目のイメージ・サイエンスの括弧とボリュームホログラフィックメモリ技術を削除すること。
- ・ 平成 18 年度事業計画の第 5 項目のイメージ・サイエンスは今年度の活動を確認し、括弧を削除することが指示された。また、ボリュームホログラフィックメモリ技術

の「18年度新グループ」と括弧は削除すること。

- ・総会資料として収支決算資料をわかりやすくすることが指示された。

(2) 平成18年度研究グループ活動報告

- ・イメージ・サイエンス研究グループの今年度活動について確認することが指示された。
- ・9件の平成18年度補助金申請について承認された。

(3) ホームページ改善について

- ・HP評価版としてCD-ROMを後日配布の予定。4月の更改を予定。
- ・Webからの会員情報更新、会誌・ORへのリンク、光学会Newsの巻数に西暦を併記することが提案された。
- ・メンテナンスを容易にするため、HPデータ構造をわかりやすくすることが指示された。

(4) OSJロゴについて

- ・日本光学会ロゴをリニューアルすることが提案され、継続審議とすることとなった。

第178回幹事会

2006年5月12日(金)に東京理科大学森戸記念館第1会議室において開催されました。「光学」編集報告、「OR」出版委員会報告、光学シンポジウム、サマーセミナー、Optics and Photonics Japan 2006の進捗報告、光応用新産業創出フォーラムの進捗報告がなされました。また、北海道支部学術講演会収支報告、五学会関西支部連合講演会収支報告、名古屋講演会収支報告、冬期講習会実施報告、「21世紀のバイオメディカルフォトンクス」の結果報告がなされました。また、協賛依頼、会員動静、会計の年度別収支、SPIE会長との懇談会についての報告がなされました。さらに、年度計画、光学論文賞選考委員会、奨励賞審査委員、会員制度委員会、500人会員増委員会、幹事選挙、ホームページのリニューアル、事務局運営、ロゴについて審議がなされました。なお、詳しい幹事会議事録は第35巻第9号に掲載予定です。

平成18年度光学論文賞受賞候補者の募集

応用物理学会では光学の分野における優秀論文の著者に対し、下記のごとく光学論文賞を贈っています。本論文賞は47年の歴史を持ち、光学奨励賞とともに日本光学会の活動度を示す重要な指標の役目を果たしております。光学論文賞規定については本号392ページをご覧ください。光学論文賞は公募に応じた自薦、他薦の候補者から選考されます。奮ってご推薦ください。

受賞対象者：原則として表彰の年に満40歳未満の日本光

学会会員あるいは応用物理学会会員であり、本年9月末日までの1年間に発行された学術刊行物に発表された光学に関する原著論文の第1著者。詳細は光学論文賞規定をご覧ください。

提出書類：候補者の氏名、会員番号、生年月日、満年齢(公募締切日における)、勤務先、勤務先所在地、自宅住所、連絡先、推薦理由(自薦他薦を問わず、論文の特徴、優れた点等を400字程度でわかりやすく記す)、候補論文別刷10部(コピー可、関連論文があれば2編以内でそれらの別刷またはコピーを1編につき10部ずつ添付)、他薦の場合は推薦者の氏名、勤務先、勤務先所在地、連絡先。

書類提出期限：2006年10月27日(金) 必着

提出先：日本光学会庶務幹事 岡本隆之

〒351-0198 和光市広沢2-1 (独)理化学研究所

河田ナノフォトンクス研究室

電話 048-462-1111 Fax 048-462-4653

E-mail: okamoto@riken.jp

結果は「光学」第36巻第3号において発表されます。

平成19年度幹事立候補者募集

平成19年度新幹事選出(任期2年、毎年半数交代)の候補者として、本会の運営に熱意ある会員の方々の立候補を募集いたします。役員選挙その他に関する内規は、本号395ページをご覧ください。候補者募集は、自薦・他薦を問いませんが、他薦の場合は本人の承諾を必要とします。候補者の推薦理由をつけてご推薦をお願いします。立候補照会および問い合わせは庶務幹事の吉田までお願いします。

立候補締切：2006年8月11日(金)

問合せ先：日本光学会庶務幹事 吉田文昭

〒192-8505 八王子市石川町2970

コニカミノルタオプト(株)OC事業部開発グループ

電話 0426-60-9318 Fax 0426-60-9325

E-mail: fumiaki.yoshida@konicaminolta.jp

第227回「光学」編集委員会

2006年5月26日(金)に、応用物理学会会議室において開催されました。第36巻第2、3号の企画決定、第36巻第5号の第二次構想案、第36巻第6、7号の第一次構想案の審議、第36巻第8、9号の号担当の決定が行われました。また、2006年3月に開催された臨時編集委員会の報告が行われました。その他、論文投稿・審査状況についての報告、会計の報告、ならびに幹事会の報告がなされました。

第40回サマーセミナー

テーマ： 命と光—光学とバイオ・医療との関係—
期 日： 2006年8月4日(金)～5日(土)
場 所： 富士教育研修所(〒410-1105 裾野市下和田656)
主 催： 日本光学会
詳細は第35巻第5号の綴じ込み案内、または日本光学会ホームページ <http://annex.jsap.or.jp/OSJ/> をご覧ください。

第2回光応用新産業創出フォーラム

—進化するブレインネットワークの構築を目指して—
日本光学会では、「ポテンシャルの高い光科学技術を開発させることによって新産業の創出を促し、社会に貢献する」という基本理念のもと、「光関連技術を産学官連携の中で創出・活用し革新的価値を創造しながら豊かな社会の建設に役立つ事業を実現する」というビジョンを掲げ、産学官連携推進事業を進めております。本フォーラムは、日本が真の科学技術創造立国となるための産学官の連携による人材育成、ブレインネットワークの構築、産業種の創出・育成に向けた議論の場を目指しています。
主 催： 日本光学会（応用物理学会）産学官連携委員会
協 賛： 精密工学会、電子情報通信学会、電気学会、日本オプトメカトロニクス協会、光産業技術振興協会など（一部依頼中）
期 日： 2006年8月23日(水)
場 所： 慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール（JR山手線・京浜東北線田町駅徒歩約8分、都営地下鉄浅草線・三田線三田駅徒歩約7分、都営地下鉄大江戸線赤羽橋駅徒歩約8分）地図：<http://www.keio.ac.jp/access.html>

プログラム：

- 13:00 開会の挨拶（運営委員長 山本公明）
- 13:05 イントロダクトリー・トーク「進化するブレインネットワークの構築について」谷田 純（大阪大）
- 13:20 特別講演「光科学と光産業創出」伊藤弘昌（東北大）
- 14:20 特別講演「光による安全・安心技術の将来展望」瀬戸洋一（産業技術大）
- 15:20 休憩
- 15:40 招待講演「光コムを用いた高精度距離計」美濃島薫（産総研）
- 16:10 招待講演「多光子過程を用いた多層高密度光メモリ」川田善正（静岡大）
- 16:40 招待講演「ポリマー光導波路の開発と実用化」細川速美（オムロン）

- 17:10 招待講演「光ファイバ網を用いた量子通信」武居弘樹（NTT）
- 17:40 閉会の挨拶（実行委員長 谷田 純）
- 18:00 懇親会（参加費無料）

参加費： [事前登録] 会員（日本光学会・協賛学協会）5,000円、非会員6,000円、学生 無料（聴講のみ）、
[当日登録] 会員（日本光学会・協賛学協会）6,000円、非会員7,000円、学生 無料（聴講のみ）

事前登録方法： 2006年8月7日18時締切。電子メールまたはFaxにて、下記項目をご記入の上、お申し込みください。(1) 氏名(フリガナ)、(2) 所属、(3) 電子メールアドレス、(4) 電話番号、(5) Fax番号、(6) 会員・非会員・学生の区分（日本光学会賛助会員の企業等に所属の方は会員としてご登録ください）。事前登録をされた方には8月8日までに電子メールで登録番号をお知らせします。

事前登録申込先・問合せ先：

慶應義塾大学理工学部電子工学科 岡田英史
E-mail: IAG-forum@okd.elec.keio.ac.jp
電話 045-566-1532 Fax 045-566-1529

第6回情報フォトニクス研究グループ研究会（秋合宿）

テーマ： 情報フォトニクスの拡がり—ナノから光システムへ、光システムからナノへ—

サブ波長スケール、分子スケールにおける近年の研究開発の目覚ましい進歩により、これまでになかったさまざまな機能システムが可能になりつつあります。他方で、情報・システムの立場、あるいは社会での価値実現の立場から、ナノスケールでの実現技術の本質や従来の光技術や電子技術との差異を明確に捉える必要も高まっています。そこで今回の情報フォトニクス研究会では、ナノフォトニクスおよび分子技術の最先端の研究者を講演者にお招きし、(1) ナノスケールからシステムへ、(2) システムからナノスケールへ、の双方のアプローチにより、ナノスケール光実現技術と情報フォトニクスの相乗的な発展の方向を探ります。

主 催： 情報フォトニクス研究グループ

期 日： 2006年9月11日(月)、12日(火)

場 所： 富士教育研修所(裾野市下和田656, <http://www.fujiken.gr.jp/>)

プログラム：

[9月11日(月)]

13:00～14:50 ナノ光学

「ナノフォトニクス（仮題）」大津元一（東大）

「システムから見たナノ光学 (仮題)」成瀬 誠 (NICT・東大)

「近接場ナノ光デバイス (仮題)」野村 航 (東大)

15:00~16:40 分子系と光システム

「分子通信 (仮題)」檜山 聡 (NTTドコモ)

「DNAと光制御 (仮題)」吉村嘉永 (北陸先端大)

「光学システムから見た分子系 (仮題)」小倉裕介 (阪大)

16:50~17:30, 20:00~ ショートプレゼンテーション&ポスターセッション

[9月12日(火)]

8:30~ パネルディスカッション「分子計算・分子通信・ナノ光学が目指すこと—応用の要求と実現技術の接点を探る—」

10:40~ 国際会議報告, ワーキンググループ報告ほか
参加費: 食事・宿泊ありの場合, 一般17,000円, 学生11,000円. 講演会の場合, 一般4,000円, 学生1,000円.

参加申込方法: 氏名, 所属, 参加費種別 (一般・学生), 食事・宿泊の有無を明記の上, E-mailにてお申し込みください.

申込締切: 2006年8月11日(金)

定員: 100名 (定員になり次第, 締め切ります)

申込・問合せ先: 赤尾佳則 (警察庁), 渡邊恵理子 (日本女子大), E-mail: ipga@fourier.jwu.ac.jp

詳細は, 情報フォトンクス研究グループウェブサイト <http://www.i-photonics.jp/meetings.html> をご覧ください.

「デジタル画像基礎技術—デジタル画像取扱いの基礎コース—」技術講座

デジタルカメラをはじめとする多くのマルチメディア機器の開発設計においては, デジタル画像データの取り扱いが基本的かつ極めて重要であり, 入力から出力に至るまでの一連のプロセスを基礎から理解することが必要不可欠です. 本講座では, 単に個々の技術の詳細を説明するのではなく, “こうすることがなぜ効果的なのか?” という観点から, 種々の画像情報技術の原理や, その基盤となる現象・原理についてわかりやすく解き明かすことを目的としています.

日時: 2006年9月4日(月) 10:30~17:00

5日(火), 6日(水) 9:30~17:00

場所: 機械振興会館別館4階日本オプトメカトロニクス協会会議室 (東京都港区芝公園3-5-22)

講師: 加藤茂夫 (宇都宮大)

主催: (社)日本オプトメカトロニクス協会

協賛: 日本光学会ほか6団体

参加費: 1名につき, 一般86,730円, 正会員61,950円, 賛助会員・協賛69,405円, デジタル・イメージング技術部登録企業52,500円 (テキスト代・消費税を含む)

定員: 26名

申込期限: 2006年8月28日(月)

問合せ先: (社)日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

E-mail: info@joem.or.jp <http://www.joem.or.jp>

「収差論」技術講座

本技術講座は専門性の高い内容となっていますので, すでにJOEM主催の「光学系基礎理論」技術講座 (講師・荒木敬介) を受講された方, または実務で1~2年以上の光学設計に携わっている方を対象としています.

講義のほか演習を加え, 研修者が光学設計における収差論の意義と役割を実際に体得されることを主眼にしています. 多様な光学系に対する収差係数の正規化について統一的理解ができるように配慮されています.

日時: 2006年9月7日, 21日, 10月5日, 19日, 11月2日, 16日, 30日, 12月14日 (計8日, すべて木曜日) 各回13:30~17:00

場所: 機械振興会館別館4階日本オプトメカトロニクス協会会議室 (東京都港区芝公園3-5-22)

講師: 荒木敬介 (キヤノン)

主催: (社)日本オプトメカトロニクス協会

協賛: 日本光学会

プログラム:

1. 序論
2. 収差論の導出
3. 実用的な収差論とその公式
4. 収差論応用のケーススタディ

参加費: 1名につき, 一般125,475円, 正会員87,675円, 賛助会員・協賛101,010円 (テキスト代・消費税を含む)

申込期限: 2006年8月31日(木)

問合せ先: (社)日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

E-mail: info@joem.or.jp <http://www.joem.or.jp>

「波動光学」技術講座

本講座は, 波動光学の概要を電磁気の方程式から出発し

て理解することを目標としています。特に、自由空間伝播、偏光、結晶光学、単一面および多層膜での屈折・反射、干渉の基礎とその応用、回折とその応用、それらを利用した結像論とホログラフィーについて、できるだけ統一的な立場から説明します。また、同時に各現象の間の関連および最近の応用例に関してもふれる予定です。

日 時： 2006年9月26日(火)、27日(水) 両日とも
9:30~17:00

場 所： 機械振興会館別館4階日本オプトメカトロニクス協会会議室(東京都港区芝公園3-5-22)

講 師： 山口一郎(群馬大)

主 催： (社)日本オプトメカトロニクス協会

協 賛： 日本光学会

参加費： 1名につき、一般55,125円、正会員40,845円、
賛助会員・協賛44,940円(テキスト・消費税を含む)

定 員： 26名

申込期限： 2006年9月19日(火)

問合せ先： (社)日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

E-mail: info@joem.or.jp http://www.joem.or.jp

「回折光学素子技術入門」技術講座

本技術講座では、光学設計技術者の方を対象として回折光学素子を実際の光学系に導入する際の基本的な設計手法

と回折光学素子の種々の応用について、この分野の第一線の研究者・技術者の方々から講義していただきます。

2日間にわたる基礎から応用までの講義により、光学設計技術者に対して回折光学素子設計に対する入門ができることを狙いとしています。この分野に今後取り組もうとしている光学設計技術者の方々にふるって受講されるようにお勧めします。

日 時： 2006年10月25日(水) 10:00~16:50
26日(木) 10:00~16:00

場 所： 機械振興会館地下3階1号室(東京都港区芝公園3-5-8)

講 師： 小館香椎子(日本女子大)、中井武彦(キヤノン)、丸山晃一(ペンタックス)、田邊 譲(旭硝子)、鈴木 等(トプコン)、佐々木浩紀(沖電気)、塩野照弘(松下電器)

主 催： (社)日本オプトメカトロニクス協会

協 賛： 日本光学会

参加費： 1名につき、一般55,125円、正会員40,845円、
賛助会員・協賛44,940円(テキスト代・消費税を含む)

申込期限： 2006年10月18日(水)

問合せ先： (社)日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

E-mail: info@joem.or.jp http://www.joem.or.jp

日本光学会 news の掲載申込み先：

〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1 (株)東芝 研究開発センター機械・システムラボラトリー
山本雄一郎

電話 044-549-2329 Fax 044-520-2057 E-mail: yuichiro@mssl.rdc.toshiba.co.jp

なお、掲載申込みは原則として発行日(10日)から2か月前の15日まで、開催日が1~10日の場合は、開催日の3か月前の15日までをお願いします。

日本光学会平成18年度幹事 (*常任幹事)

幹事長：	伊東 一良* (大阪大)	
副幹事長：	立野 公男* (日立)	笹木 敬司* (北海道大)
前幹事長：	黒田 和男 (東京大)	
庶務幹事：	吉田 文昭* (コニカミノルタオプト)	岡本 隆之* (理研)
	田中 哲* (防衛大)	豊田 晴義* (浜松ホトニクス)
	石橋 爾子* (ネオアーク)	鬼頭 勤* (NTT)
	生駒 晋也* (トプコン)	山本雄一郎* (東芝)
	麻生 修* (古河電工)	
『光学』編集幹事：	伊藤 雅英* (筑波大)	小野寺理文 (能開大)
『OR』編集・出版幹事：	植田 憲一* (電通大)	石井 行弘* (東京理科大)
国際協力幹事：	小西 毅 (大阪大)	各務 学 (豊田中央研)
産学協力幹事：	藪本 浩利 (旭硝子)	藤井 秀雄 (ペンタックス)
将来問題担当幹事：	三宅 隆浩 (シャープ)	清水 賀代 (日本女子大)
電子化担当幹事：	的場 修 (神戸大)	伊藤 達男 (松下電器)
事業・企画担当幹事：	氏家 知子 (ニコン)	矢口 博久 (千葉大)
	佐藤 康郊 (富士ゼロックス)	本多 徳行 (キヤノン)
	板橋 彰久 (リコー)	近江 雅人 (大阪大)
	武山 哲英 (オリンパス)	高橋 進 (凸版印刷)
	吉川 宣一 (埼玉大)	岡嶋 克典 (横浜国立大)
	岡本 淳 (北海道大)	松浦 祐司 (東北大)
	田代 発造 (富山大)	鈴木 孝昌 (新潟大)
	西澤 典彦 (名古屋大)	和田 健司 (大阪府立大)
	岩田 哲郎 (徳島大)	入江 正浩 (九州大)
